

中学部 陶工作業「感謝の気持ちを表そう」～寄せ植え鉢制作～



- ・長時間作業集中するのが苦手
- ・不器用だったり、形をとらえることが苦手
- ・先輩たちのようになりたい、漠然とした願い

- ・興味を持続し、集中できるように！
- ・友達と協力して作り上げる経験を！
- ・誰かのために、心を込めて作る、その気持ちを大切にしてほしい（勤労の意義）



○これまでの授業(本単元の導入として)

- ・自分や家族のために作品を作ることを通して、制作の技法を身につけました。
- ・近隣の事業所へ贈る作品作りで、喜んでもらえる作品について考えました。
- ・友達や先生への、感謝の贈り物制作で、渡す人が喜ぶ顔を思い浮かべて作品を作りました。



「お世話になっているんやから、最高のものをプレゼントしたい!」と、一番難しそうな豪華三段鉢を選択。別のグループも触発されて同じものを選んだ。

①プレゼントに相応しい鉢を作ろう

意欲がもてる工夫

- ・「いつもお世話になっている校長先生と養護教諭の先生から、校長室と保健室に飾る多肉の寄せ植え鉢を作ってほしいと、注文があった」ことにしました。
- ・「多肉の寄せ植えって何だろう?」という疑問に答えられるよう、きれいな寄せ植えや鉢を写真で提示しました。

②心を込めて寄せ植えを作ろう

- ・素焼きが終わった三段鉢に、リメイク鉢の要領で、外用耐水塗料で彩色。見本の写真を見ながらカラフルさ、かわいさ、アンティーク感を意識し、協力して塗れました。
- ・たくさんの多肉植物(エケベリア類)の中から、植えたい植物を好き好きに選んでカット。出来上がりのカラフルさを意識して選べました。
- ・自分たちでレイアウトして植えました。出来上がりの立体感や色味を考えて集中して植えられました。

おすすめポイント

『誰かのために作る喜びを感じさせる』ことが、勤労意欲につながりました。



おすすめ 動機づけポイント

- ・制作の注文が来た、という「設定」
- ・「大好きな先生へのプレゼント」で、意欲・集中力アップ
- ・協力が必要な大きな作品制作→お互いの思いを相談



子どもの反応

- ★教師が予想した簡単な鉢ではなく「プレゼントするなら最高にステキな鉢がいい」
- ・一段ずつ分担することを相談していました

